

2010年3月期決算および

新中期経営計画説明会

2010年5月12日

株式会社キョーリン

代表取締役社長 山下 正弘



- 2010年3月期決算の概況
- 中期経営計画(2005～2009年度)
「キョーリンMIC-'09計画」の総括
- 新中期経営計画(2010～2015年度)
「HOPE 100 ーステージ1ー」について

2010年3月期 決算概観(連結)



単位:億円

	09年3月期	10年3月期	対前年増減	前年同期比
売上高	909	998	+89	9.8%増
営業利益	90	133	+43	48.1%増
経常利益	92	142	+50	54.6%増
当期純利益	20	88	+68	334.3%増

2010年3月期 売上高の増減(連結)



単位:億円

	09年3月期	10年3月期	対前年増減
売上高合計	909	998	+89
◆新医薬品	757	824	+67
○国内	719	798	+79
○海外	38	26	▲12
◆後発医薬品	63	86	+23
◆ヘルスケア	77	72	▲5
◆その他	12	16	+4

主要製品売上

単位:億円

	09年3月期	10年3月期	対前年増減
キプレス	252	292	+40
ムコダイン	206	209	+3
ペンタサ	157	194	+37
ウリトス	20	37	+17

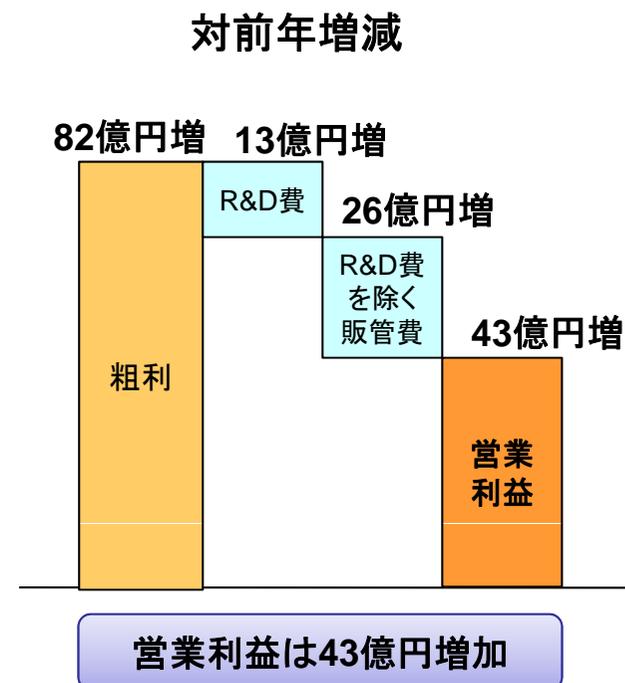
売上高増減のポイント

- 【国内新医薬品】 +79億円 ・主要製品が好調に推移
- 【海外新医薬品】 ▲12億円 ・ガチフロキサシン点眼、ActivXの売上が減少等
- 【後発医薬品】 +23億円 ・08年度・09年度の追補品及び、重点商品の売上増加
・キョーリン リメディオ決算期の変更(連結対象期間:14ヶ月)

2010年3月期 損益の概要(連結)



単位:億円	09年3月期	10年3月期	対前年増減
売上高	909	998	+89
売上原価	368	375	+7
販売費及び一般管理費	451	490	+39
R&D費	105	118	+13
R&D費を除く販管費	346	372	+26
営業利益	90	133	+43
経常利益	92	142	+50
当期純利益	20	88	+68



年間配当:50円(中間10円、期末40円)予定

ポイント

○営業利益は43億円増加

・売上総利益は82億円増加

売上高が89億円増加したが、売上原価額は7億円の増加にとどまった(ペンタサの自社製造、原価率の低いウリスの売上増などにより売上原価率が2.9ポイント改善し、37.6%となった)。

・販売費及び一般管理費は日清キョーリン製薬の統合等により39億円増加

R&D費は13億円、R&D費を除く販管費は26億円増加(R&D費を除く販管費率は0.8ポイント減)。

主な子会社の業績



単位: 億円

杏林製薬	2009年3月期	2010年3月期
売上高	780	853
営業利益	85	131
当期純利益	40	95

2011年3月期(予想)
873
123
84

キョーリン リメディオ	2009年1月期	2010年3月期 ※2
売上高	74	101
営業利益	▲4	4
当期純利益	▲6	4

2011年3月期(予想)
89
2
1

ドクタープログラム	2009年3月期 ※1	2010年3月期
売上高	41	33
営業利益	1	▲1
当期純利益	1	▲1

2011年3月期(予想)
37
2
2

※1: ドクタープログラムの2009年3月期業績は決算期変更に伴い14ヶ月分を計上

※2: キョーリン リメディオの2010年3月期業績は決算期変更に伴い14ヶ月分を計上

2011年3月期 業績予想(連結)



単位:億円

	2010年3月期 (実績)	2011年3月期 (予想)	対前年増減
売上高合計	998	1,003	+5
◆医薬品事業	910	919	+9
◆ヘルスケア事業他	87	83	▲4
営業利益	133	127	▲6
経常利益	142	134	▲8
当期純利益	88	85	▲3

主要製品売上予想

単位:億円

	10年3月期 (実績)	11年3月期 (予想)	対前年増減
キプレス	292	314	+22
ムコダイン	209	214	+5
ペンタサ	194	201	+7
ウリトス	37	51	+14

売上高・営業利益増減のポイント

【売上高】

- ◆医薬品事業
 - 国内新医薬品 +27億円 ・薬価改定(6%台)を上回る主要製品の伸長を見込む
 - 海外新医薬品 ▲8億円 ・ガチフロキサシン点眼の売上減
 - 後発医薬品 ▲10億円 ・キョーリン リメディオ決算期変更の影響(09年度は連結対象期間:14ヶ月)
- ◆ヘルスケア事業他 ・杏文堂の決算期変更の影響(09年度は連結対象期間:13ヶ月)

【営業利益】

- ・売上原価率の低減に取り組み、売上総利益は増加を予想(売上原価率:約1ポイント低下)
- ・R&D費は118億円から134億円と16億円増加
[KRP-108の開発推進、KRP-209(Neramexane)の臨床試験開始等]
- ・R&D費を除く販管費率はほぼ横ばいを予想

**中期経営計画(2005～2009年度)
「キョーリンMIC-'09計画」の総括**

<目指す企業像>

「グローバルな創薬ビジネスをコアとし、
信頼をベースとした特色ある複合ヘルスケア企業」

<基本戦略>

1. グローバル創薬企業としてのポジショニングの確立

- ① グローバル創薬システム確立(後期開発品の創製)
- ② アライアンスの積極的な展開

2. 創薬投資を支える医薬事業の競争力強化

- ① 国内営業基盤の競争力強化
- ② 新薬ウリトスの収益の最大化
- ③ M&Aを含めたアライアンス戦略の推進(FC3科の製品導入、提携)

3. 医薬事業に次ぐ将来を担う新規事業の構築

5年間の主な動き



	グループの動き	製品の動き
2005年度	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋ファルマー子会社化(05.5) ・ドクタープログラム子会社化(05.6) ・持株会社体制へ移行(06.3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウリトスをLGLS社(韓国)へ導出(05.10) ・KRP-203をノバルティス社へ導出(06.2)
2006年度		<ul style="list-style-type: none"> ・テクイン販売中止(06.6) ・ラピッドテストを第一化学薬品から導入(06.9)
2007年度		<ul style="list-style-type: none"> ・HES事業をFK社へ譲渡(07.4) ・ウリトス 新発売(07.6) ・キプレス細粒4mg 新発売(07.10) ・Milton CP 新発売(08.1) ・ペンタサ 小児適応取得(08.2) ・キプレス 成人アレルギー性鼻炎 効能追加(08.1)
2008年度	<ul style="list-style-type: none"> ・杏林製薬と日清キョーリン製薬合併(08.10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・キプレス錠5mg 新発売(08.4) ・KRP-108をスカイファーマ社から導入(08.4) ・ペンタサ錠500mg 新発売(08.10) ・ペンタサ錠 UC活動期4g投与取得(08.12) ・ウリトスをSPIMACO社(中東・北アフリカ13カ国)へ導出(09.2) * ガチフロ錠販売中止(08.9)
2009年度		<ul style="list-style-type: none"> ・ガチフロキサシン点眼を千寿(中国)へ導出(09.7) ・ウリトスをエーザイ(中国・アセアン諸国・インド・スリランカ)へ導出(09.9) ・KRP-209をメルツ社から導入(09.11)

結果と評価

	MIC-'09目標	MIC-'09結果 (09年度)	MIC-'09入口 (04年度)
ROE	7%	8.8%	2.2%
連結売上高(目安)	1,000億円	998億円	663億円
後期開発品(自社創製)	年1品目	2品目 (KRP-204肥満、KRP-104)	

評価

○ROE は計画を上回るなど、業績面では概ね目標を達成

○グローバル創薬システム確立及び新規事業の構築では課題を残す

HOPE 100 —ステージ1— (2010～2015年度)

企業理念

長期ビジョン「HOPE 100(2010～2023年度)」

新中期経営計画

「HOPE 100 –ステージ1– (2010～2015年度)」

事業戦略 (S)

Strategy

組織化戦略 (O)

Organization

成果目標 (P)

Performance

創業100周年を見据えたグループの未来像

【Statement】

キョーリン製薬グループは、ヘルスケア事業を多核的に展開・発展させ、2023年には社内外が認める健全な健康生活応援企業へと進化します



「HOPE 100」

Aim for Health Of People and our Enterprises

事業戦略(S)

Strategy

マルチ・コア戦略 (MC戦略)

— 医薬品事業を中核とするヘルスケア事業の多核化 —

医薬品事業

ファーマ・コンプレックス・モデル
(PCモデル)



複合的な事業展開
(新薬群、先発品群、後発品群)

ヘルスケア事業

既存事業の育成と新規事業の創出

複合的な事業展開により、医薬品事業の持続成長を目指す

■新薬群:

キプレス、ウリトスの普及の最大化に加え、KRP-108の上市とKRP-104の導出を目指す

■先発品群:

LCMにより重点品目(ムコダイン、ペンタサ)の 価値の向上とライフサイクルの延長を図る

■後発品群:

キョーリン製薬グループ内での連携強化、外部とのアライアンス推進により拡大する

LCM: ライフサイクルマネジメントの略

【新薬群】 キプレス

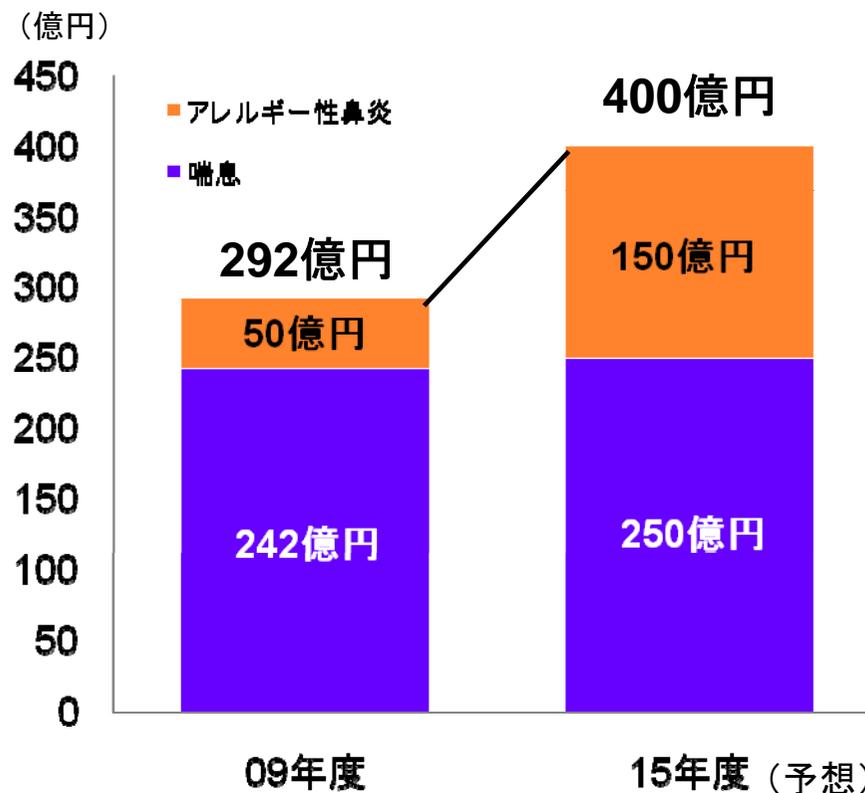
- ・1日1回、経口投与、眠気が少ない
- ・成人・小児の喘息に加え、効能追加したアレルギー性鼻炎(通年性、季節性)での処方拡大

■ 2015年度の需要予測(社内)

■ 目標売上高 400億円以上



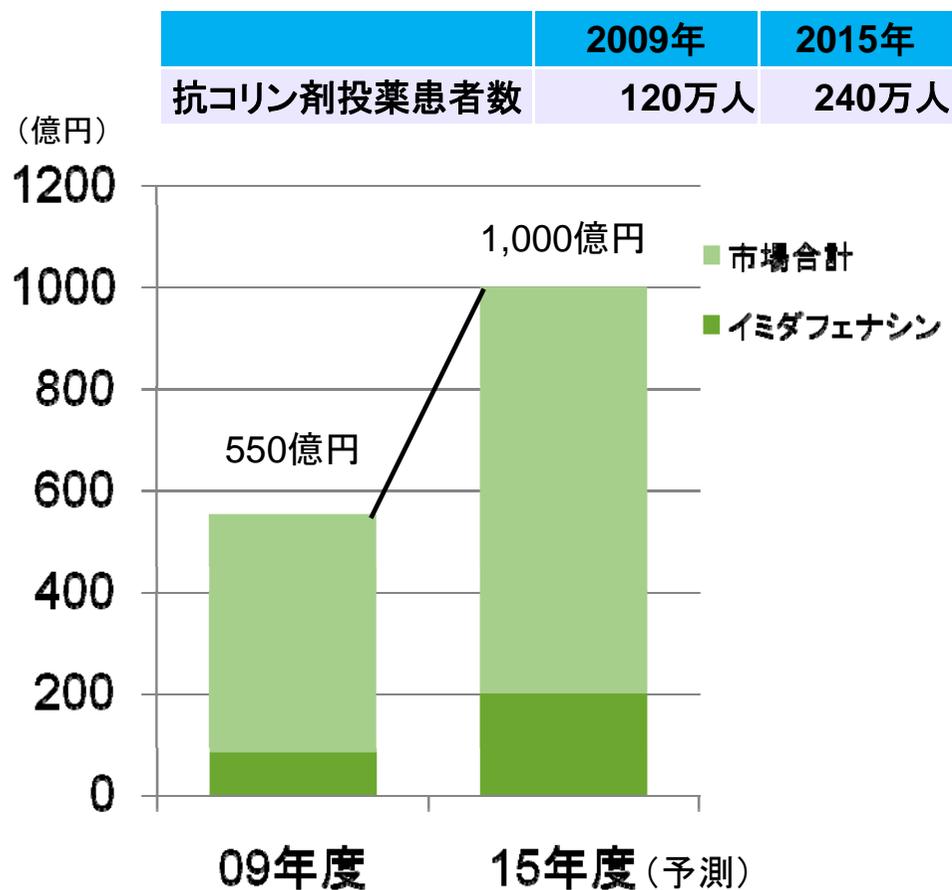
LT拮抗剤市場
シェア約30%
(2010年3月末)



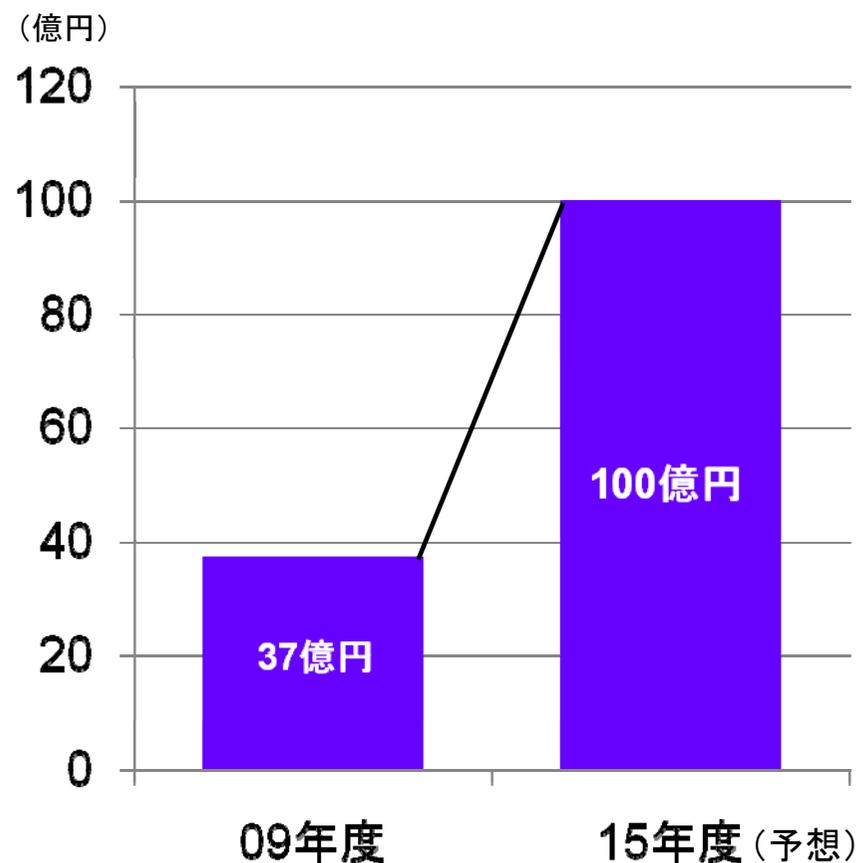
【新薬群】 ウリトス

- ・1日2回、夜間頻尿、安全性、用量調節
- ・OD錠の上市(2010年度中)
- ・過活動膀胱(OAB)患者さんの顕在化

■ 2015年度の抗コリン剤の需要予測(社内)



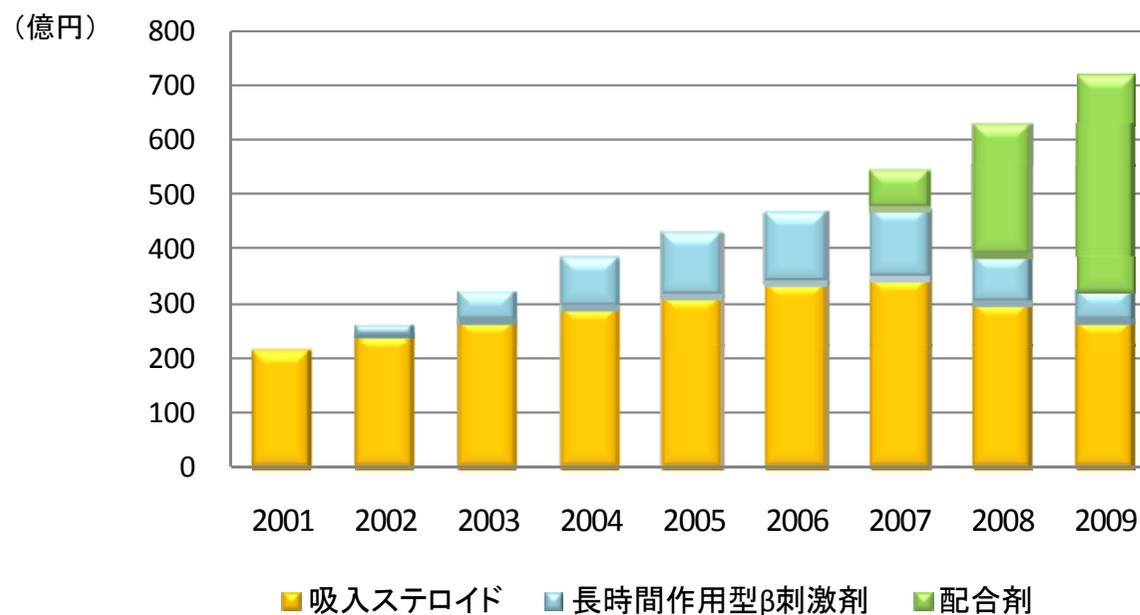
■ ウリトス目標売上高 100億円以上



【新薬群】 KRP-108(Flutiform)

- ・(開発状況)2012年度申請、2014年度の上市を目指す
- ・ベストな“ICS(フルチカゾン)とLABA(ホルモテロール)”の組み合わせ
- ・最適なデバイス

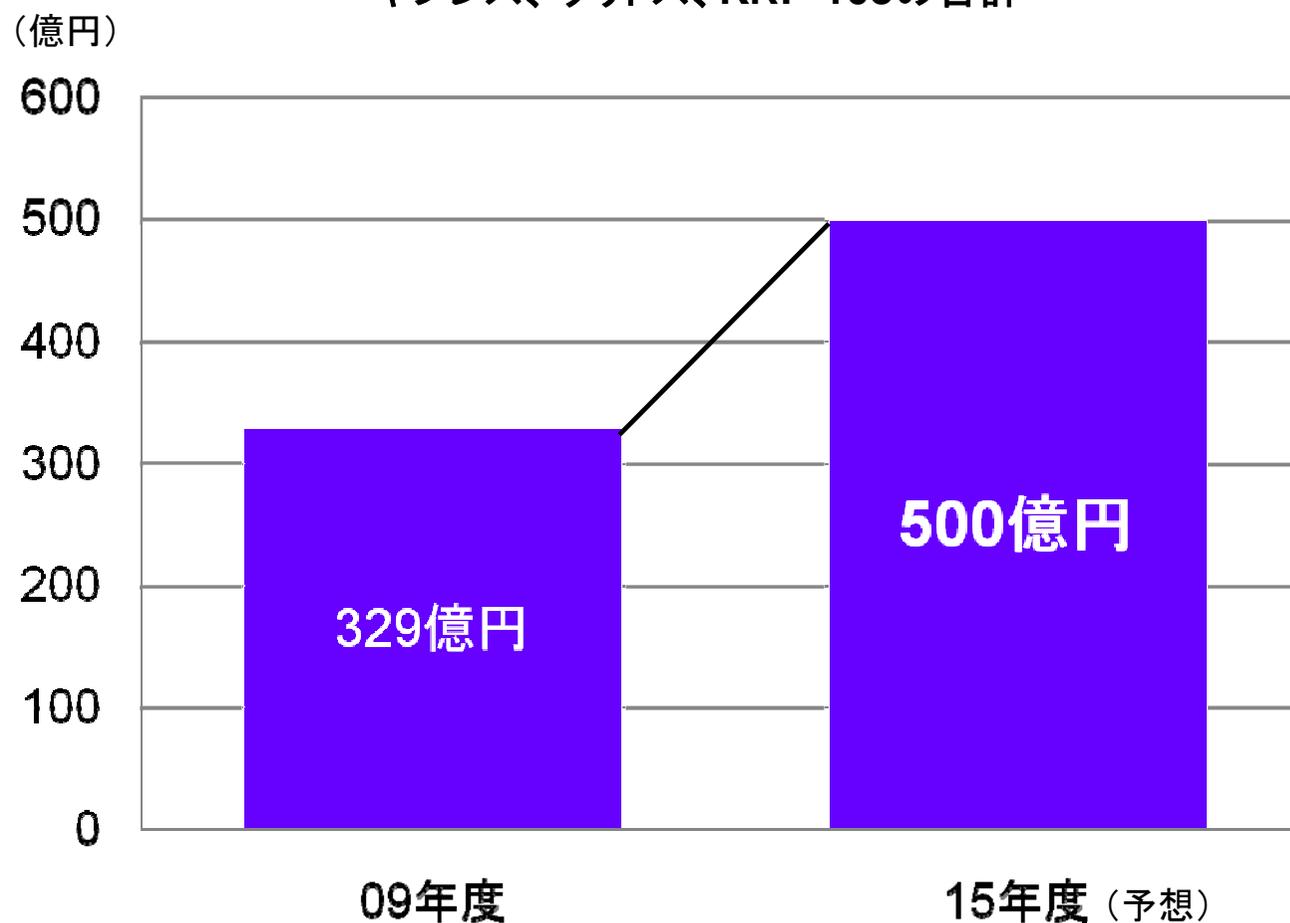
(市場状況) 配合剤(ICS・LABA)市場は急速に拡大中



ベストインクラスの配合剤として、主要製品に育つことを期待

新薬群の売上高目標

キプレス、ウリス、KRP-108の合計



PCモデルの展開 —先発品群—

【先発品群】 ムコダイン

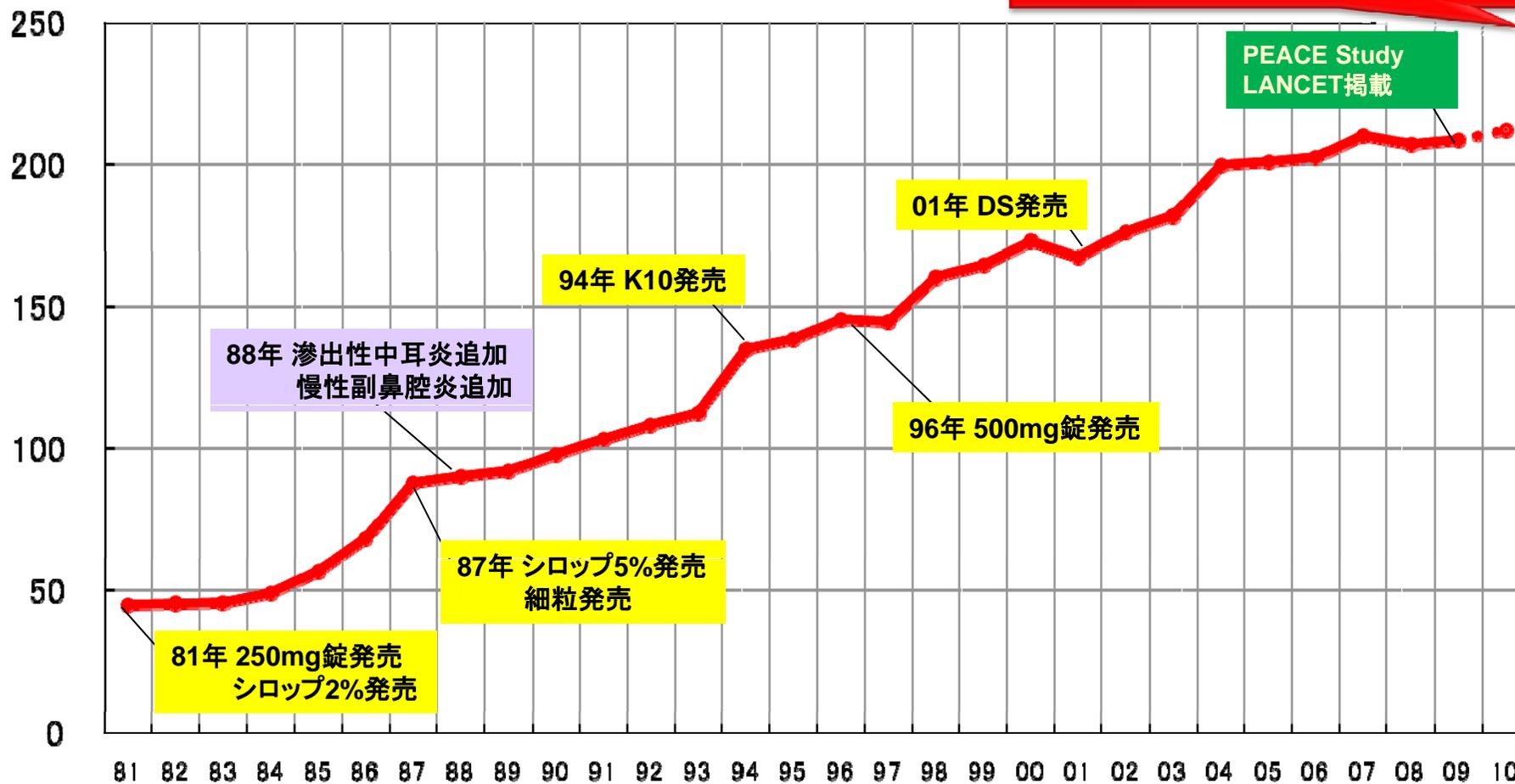


- ・ムコダインは1981年の発売以来、計画的、継続的なLCMを展開
- ・これまでの要望(利便性、適応症等)を踏まえて、更に改良した製剤(ムコダインDS50%)を発売予定(5月)

(億円)

LCM: ライフサイクルマネジメントの略

DS50% 新発売

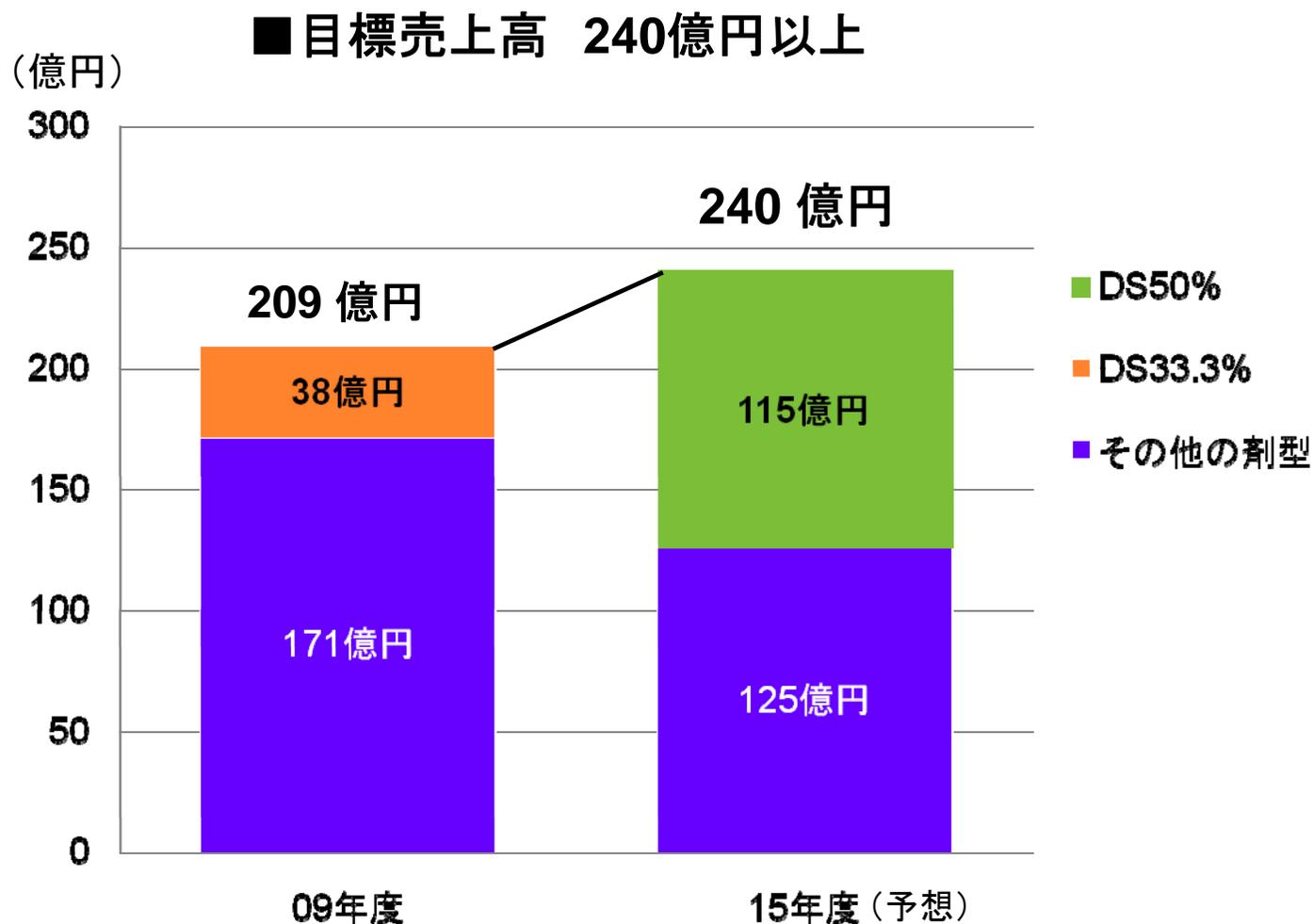


年度

出典: 社内実績

【先発品群】 ムコダイン

- ・新剤型 (DS50%) の普及 (小児から成人まで) の最大化
- ・慢性疾患への処方拡大 (PEACE Studyほか)



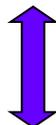
【先発品群】 ペンタサ

【 LCMと潰瘍性大腸炎に対する基準処方 の確立 】

- ・500mg錠の採用促進と、活動期4g処方の普及
- ・寛解導入・寛解維持療法における注腸併用療法の普及
- ・1日1回投与の普及(治験中)～コンプライアンスと寛解維持効果の向上

■ 2015年度の市場動向(社内)

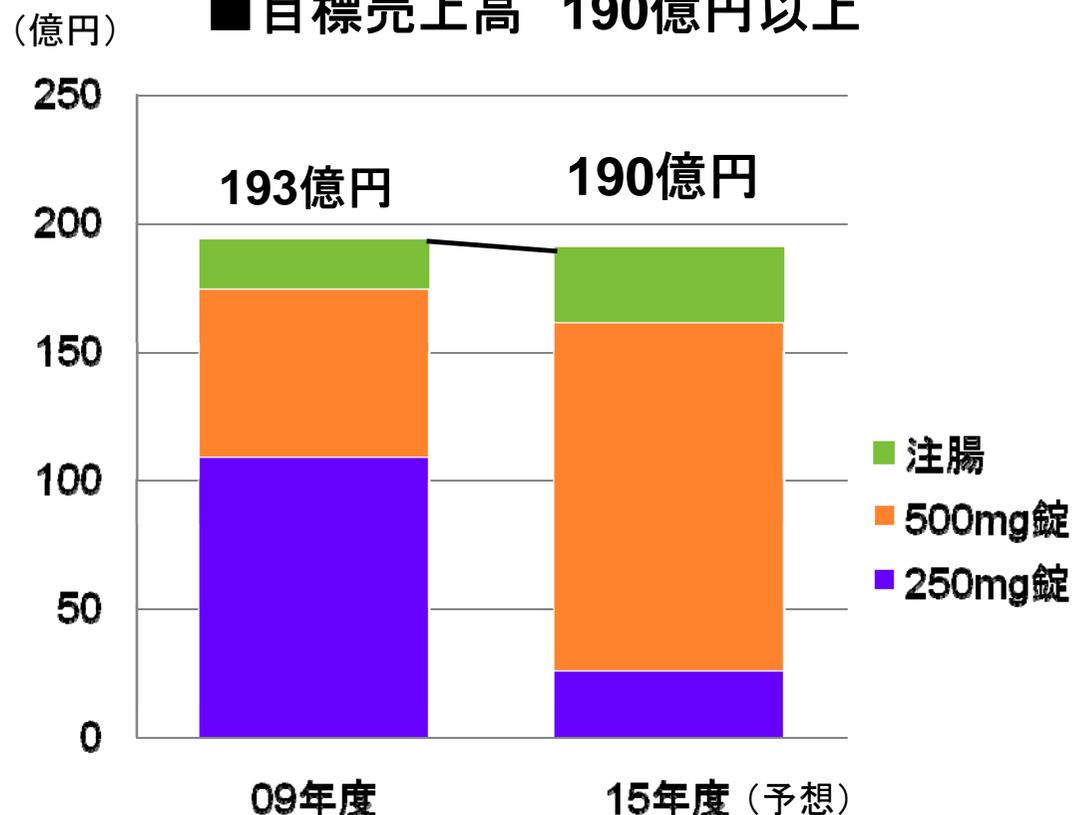
メサラジン製剤としては、
年率5%以上の成長を予測



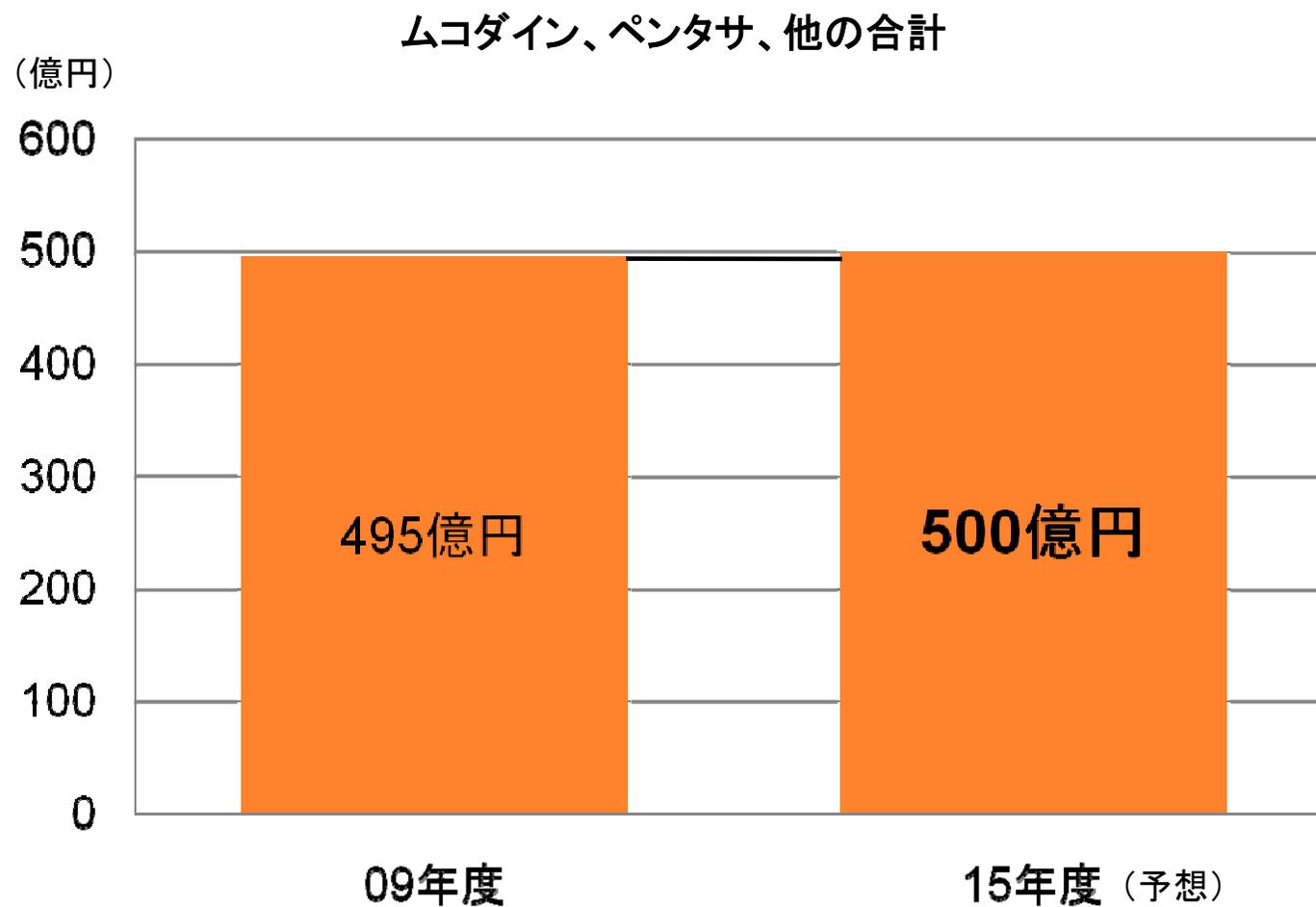
競合品(同一成分)の上市による
競争の激化



■ 目標売上高 190億円以上



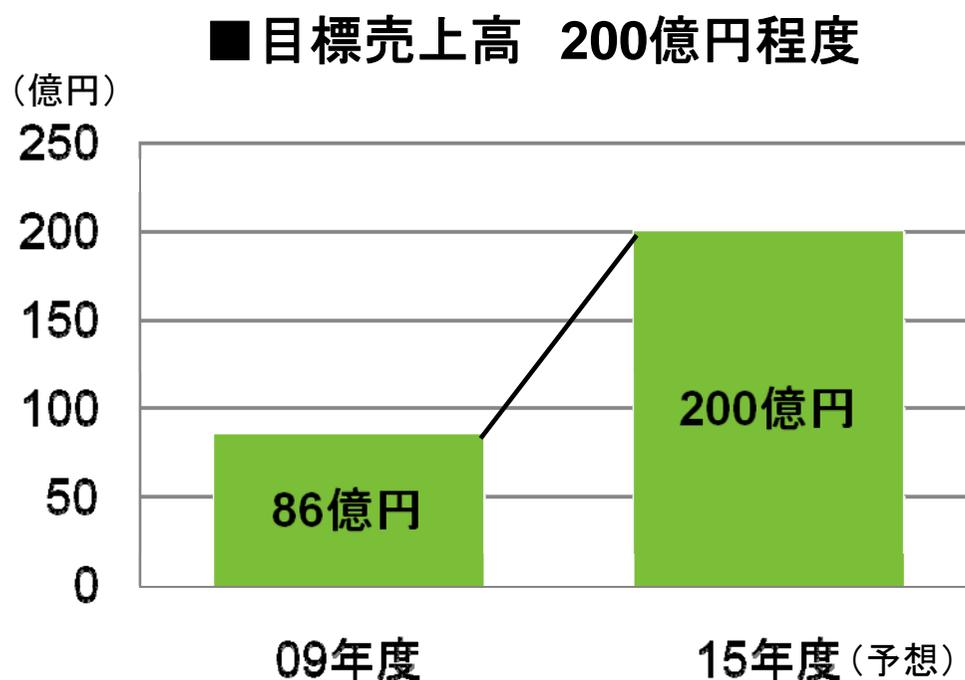
先発品群の売上高目標

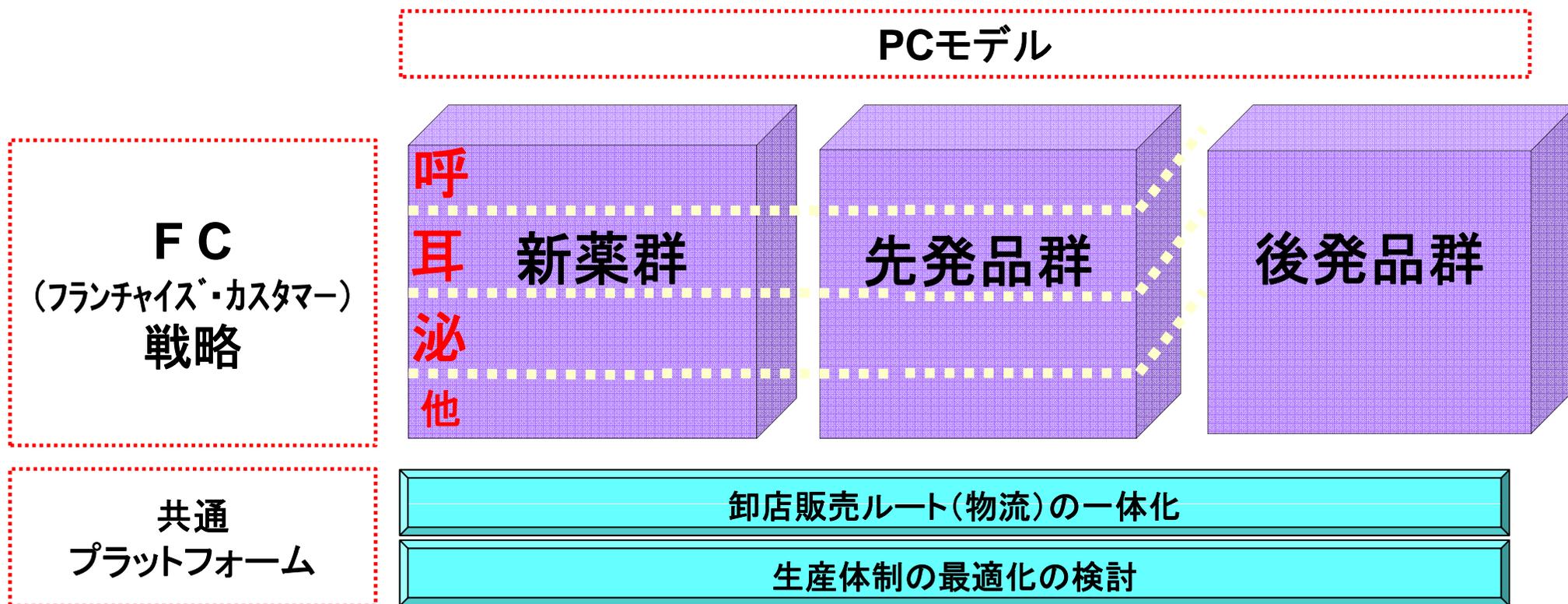


PCモデルの展開 ー後発品群ー

グループ内での連携強化、外部とのアライアンスの推進

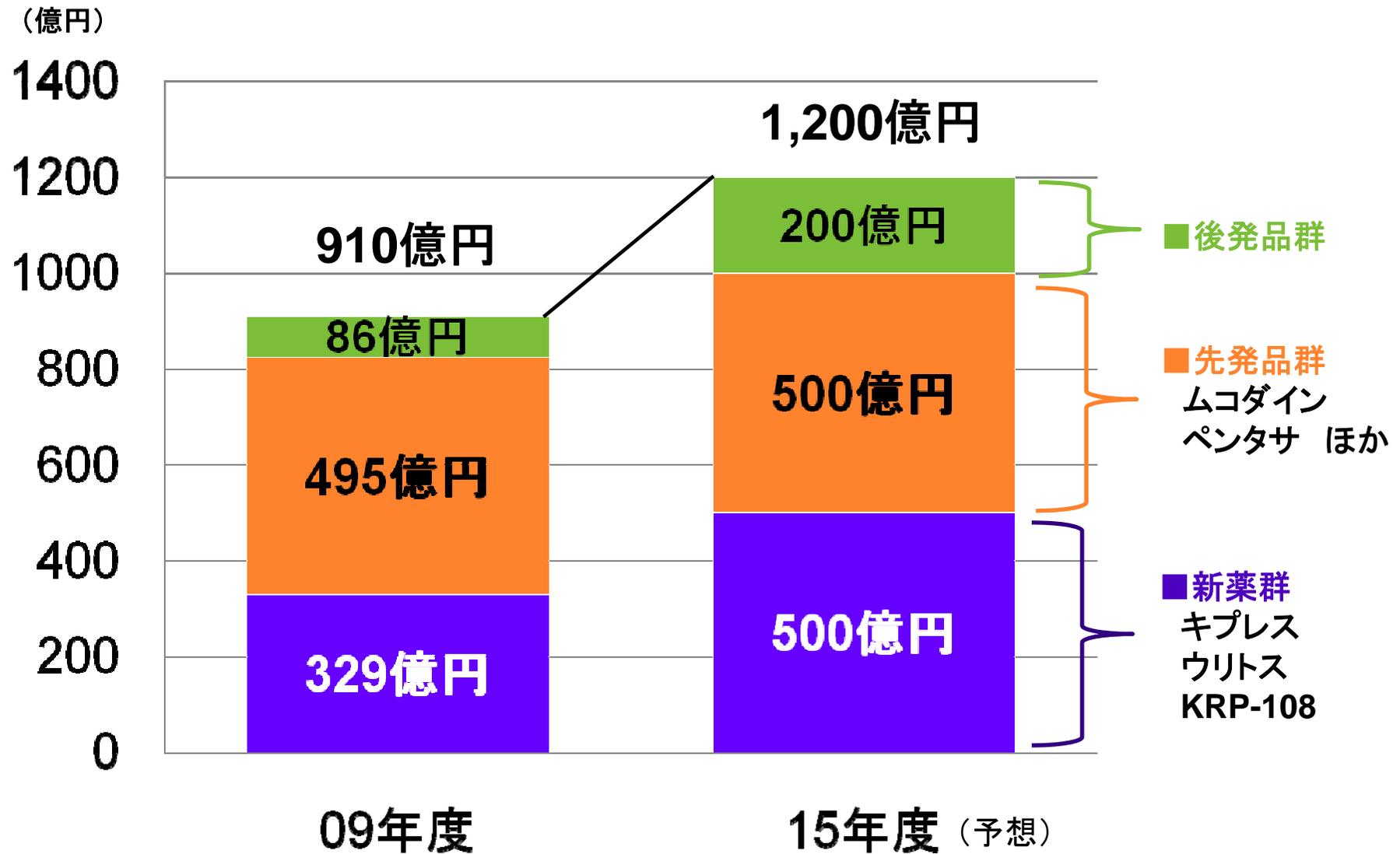
- ・キョーリンリメディオの卸店販売ルート(物流)をキョーリン製薬へ統合
- ・追補品目の拡大(40成分以上/6年)
- ・最適な生産体制の構築
- ・原価率の低減(60%以下)
- ・バイオ後続品への取り組み検討





環境変化に応じて臨機応変な戦略を展開する
(キョーリン製薬とキョーリン リメディオの機能再編を含む)

医薬品事業の売上高目標(まとめ)



パイプラインの充実(新薬群)



HOPE100－ステージ1－
2010～2015年度

HOPE100－ステージ2－
2016～2019年度

HOPE100－ステージ3－
2020～2023年度

既存品のLCM

KRP-108
(喘息治療薬)

KRP-104
(糖尿病治療薬)

AS-3201
(糖尿病合併症治療薬)

KRP-209
(耳鳴治療薬)

KRP-203
(免疫調整剤)

KRP-110
(便秘、
難治性掻痒治療剤)

抗菌薬

世界的なオリジナル新薬
の創製

導入品の獲得・アライアンスの推進を目指す

ヘルスケア事業

ヘルスケア事業の多核化を通じ、 医薬品事業のリスク補完とグループの持続成長を図る

■スキンケア事業:

収益事業化と成長促進(含むアジア市場展開)

■ミルトン事業他:

ミルトンブランドを活用した新たな事業展開

■新規事業の創出:

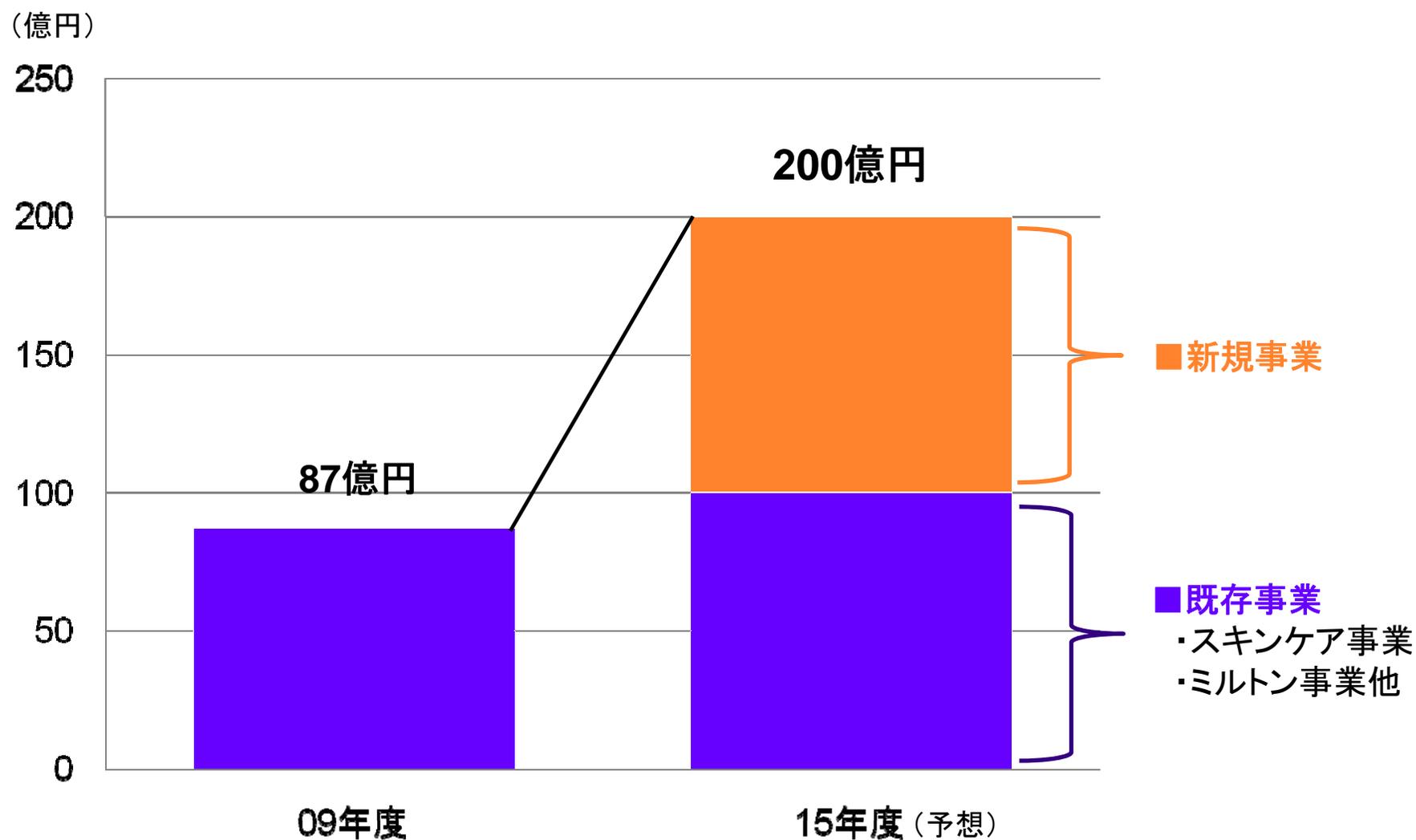
企業理念を具現化し将来の核と期待される新規事業の創出を目指す

新規事業のターゲット領域

医療用医薬品の周辺市場

コンシューマ市場

ヘルスケア事業の目標売上高



組織化戦略(O)
Organization

「事業は人にあり」(創業の精神) → 人を中心に据えた経営

グループ各社の社員が働きがいNo.1と実感できる企業
社員が誇りを持ち、信頼し、結束して働ける企業

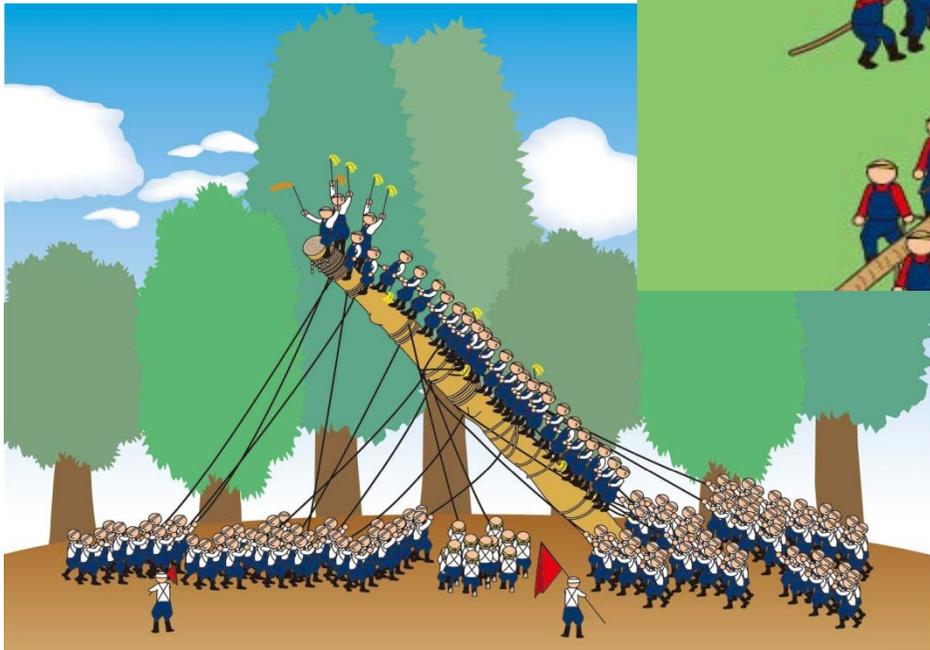
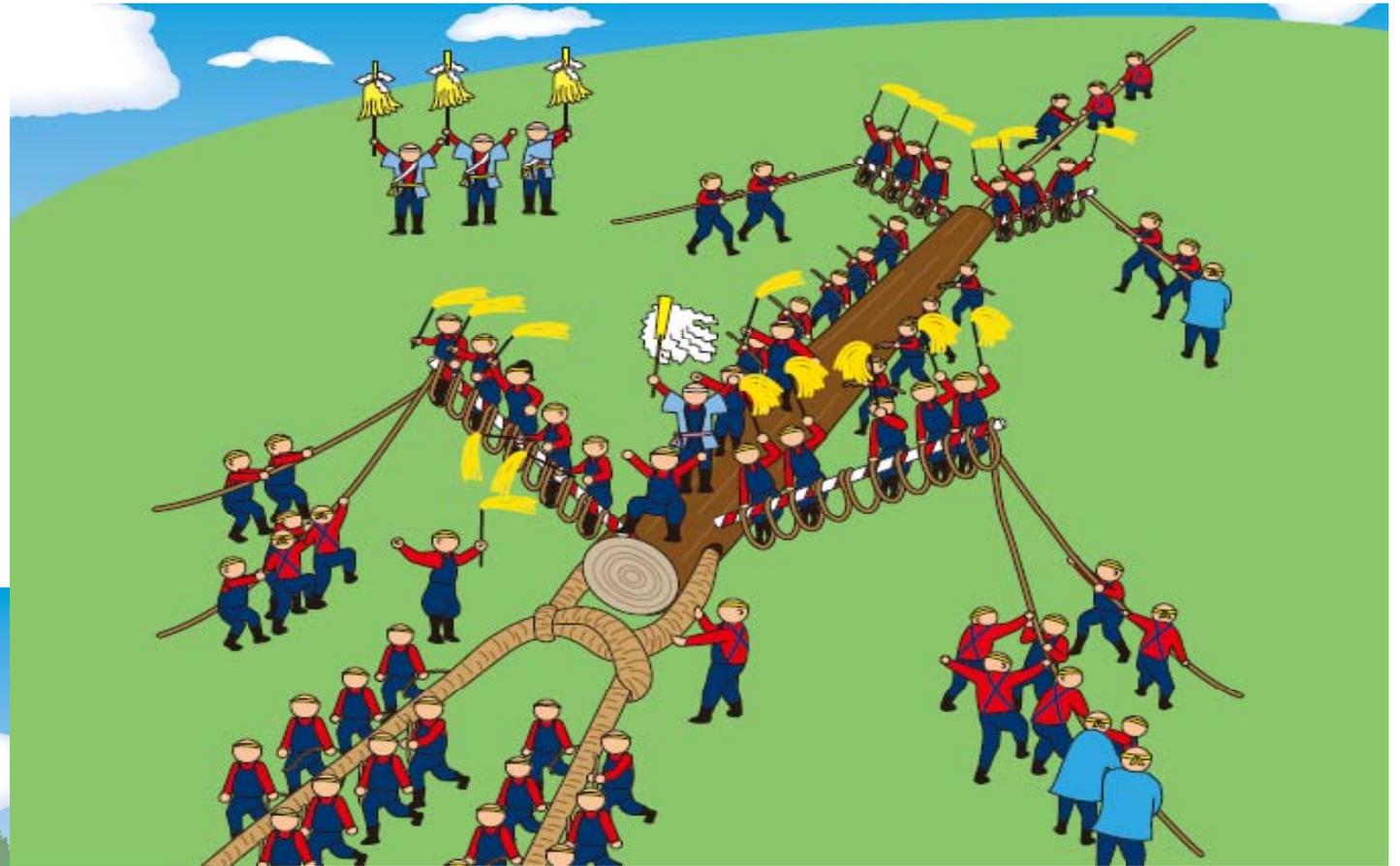
- ・人材マネジメント(採用、育成、評価、昇進、配置、報酬、福利厚生)の再構築
- ・コミュニケーションの活性化 など

社員一人ひとりが持てる力を発揮

共通の目標に向かって力を結集

人と組織を活性化し、成果の具現に真摯に取り組む

御 柱



成果目標(P)
Performance

2009年度

経営指標	結果
連結売上高	998億円
医薬品事業	910億円
HC事業	87億円
営業利益	133億円



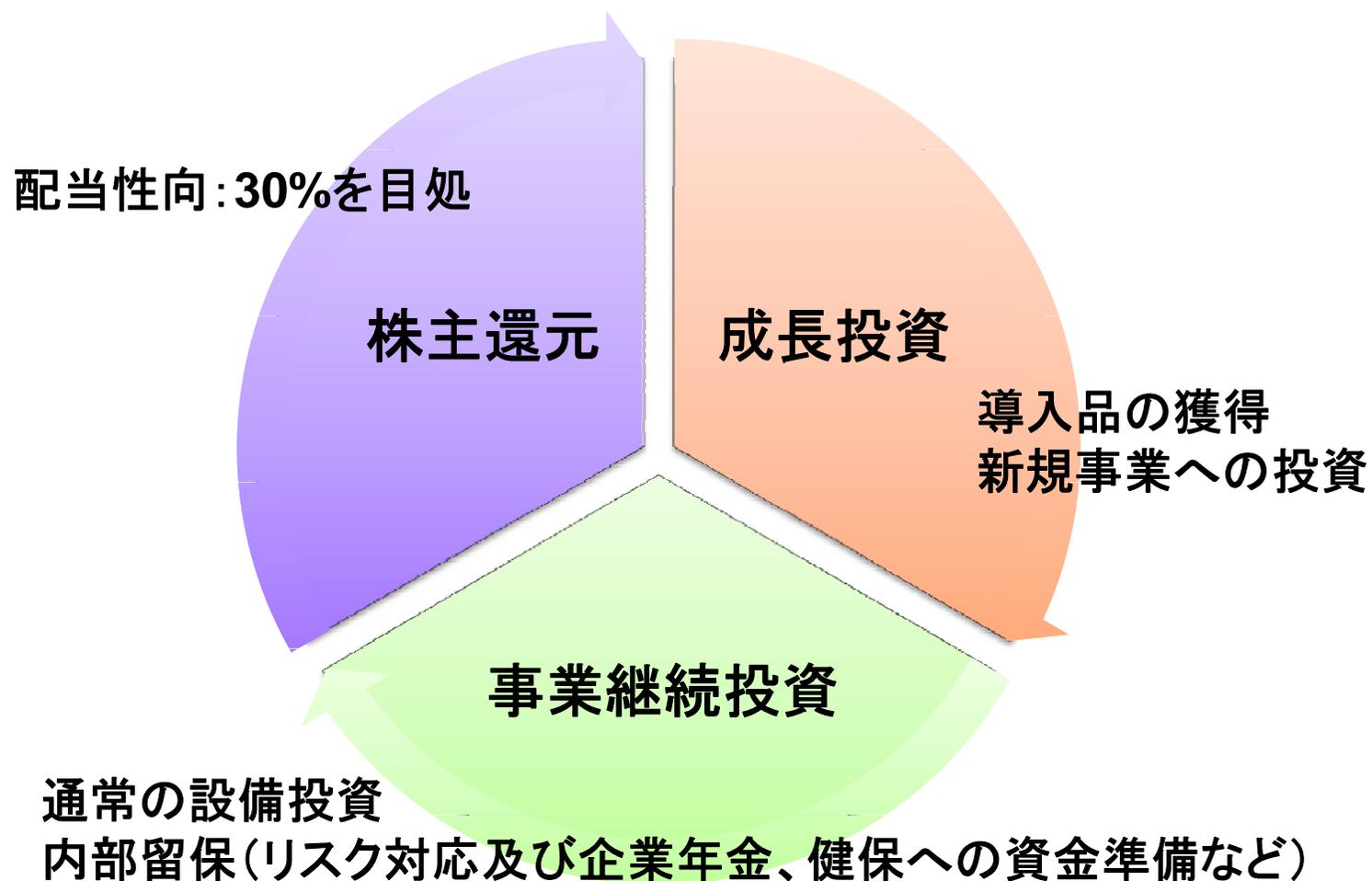
2015年度

経営指標	目標値
連結売上高	1,400億円
医薬品事業	1,200億円
HC事業	200億円
営業利益	200億円

HC:ヘルスケアの略

投資と株主還元について

成長のための投資、事業継続のための投資、株主還元をバランスよく実施し、経営基盤の強化を図ります



参考資料

損益計算書の概要：連結①



(単位:百万円)

	09年3月期		10年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	90,889	100.0%	99,764	100.0%	9.8%	8,874
新医薬品	75,690	83.3%	82,395	82.6%	8.9%	6,705
国内	71,935	79.1%	79,766	80.0%	10.9%	7,831
海外	3,755	4.1%	2,629	2.6%	▲30.0%	▲1,126
後発医薬品	6,264	6.9%	8,642	8.7%	37.9%	2,377
ヘルスケア	7,725	8.5%	7,157	7.2%	▲7.4%	▲568
その他	1,208	1.3%	1,569	1.6%	29.9%	360

<適応範囲及び持分法の適用について>

連結子会社7社：杏林製薬(株) (株)杏文堂

キョーリンリメディオ(株)

ドクタープログラム(株)

Kyorin USA, Inc.

Kyorin Europe GmbH

ActivX Biosciences, Inc.

持分法適用会社1社：日本理化学薬品(株)

<当期のポイント>

対前年

■ 売上高 99,764百万円 (+8,874百万円)

● 国内新医薬品 79,766百万円 (+7,831百万円)

09.3実績 10.3実績(億円)

・キプレス 252 → 292 (+40)

・ペンタサ 157 → 194 (+37)

・ムコダイン 206 → 209 (+3)

・ウリトス 20 → 37 (+17)

● 海外新医薬品 2,629百万円 (▲1,126百万円)

・ガチフロキサシン 25 → 22 (▲3)

* ザイマー \$101MM⇒\$98MM ロイヤルティ収入の減少

(為替変動の影響等)

ActivX社の売上減少等

● 後発医薬品 8,642百万円 (+2,377百万円)

* 追補品・重点商品等による売上増加

* 決算期の変更：連結対象期間14ヵ月

● ヘルスケア 7,157百万円 (▲568百万円)

・ミルトン 18 → 19 (+1)

・ドクタープログラム社 41 → 33 (▲8)

* 決算期の変更：前年の連結対象期間14ヵ月

● その他 1,569百万円 (+360百万円)

損益計算書の概要：連結一②



(単位：百万円)

	09年3月期		10年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	90,889	100.0%	99,764	100.0%	9.8%	8,874
売上原価	36,791	40.5%	37,477	37.6%	1.9%	686
売上総利益	54,098	59.5%	62,287	62.4%	15.1%	8,188
販売費及び 一般管理費 (うち研究費)	45,146 (10,531)	49.7% 11.6%	49,025 (11,807)	49.1% 11.8%	8.6% (12.1%)	3,878 (1,275)
営業利益	8,952	9.8%	13,261	13.3%	48.1%	4,309
営業外収益	807	0.9%	1,092	1.1%	35.4%	285
営業外費用	550	0.6%	120	0.1%	▲78.2%	▲430
経常利益	9,208	10.1%	14,234	14.3%	54.6%	5,026
特別利益	203	0.2%	49	0.0%	▲76.0%	▲154
特別損失	4,564	5.0%	301	0.3%	▲93.4%	▲4,263
税金等調整前 当期純利益	4,847	5.3%	13,982	14.0%	188.5%	9134
法人税・住民税 及び事業税	2,727	3.0%	5,518	5.5%	102.3%	2,790
法人税等調整額	82	0.1%	▲385	▲0.4%	—	▲467
当期純利益	2,037	2.2%	8,848	8.9%	334.3%	6,811

<当期のポイント>

対前年

◆原価率：前年比2.9ポイント低下 (40.5%⇒37.6%)

低下要因：ペンタサ自社製造に伴い低下

◆研究開発費率：前年比0.2ポイント上昇

*105億円⇒118億円(約13億円上昇) (11.6%⇒11.8%)

◆販管費率(除R&D費)：前年比0.8ポイント低下

(38.1%⇒37.3%)

*346億円⇒372億円(約26億円増加)

日清キョーリン製薬の統合などにより販管費(除R&D費)は増加したものの、売上増加により販管費率(除R&D)は0.8ポイント低下

■営業利益 133億円

◆営業利益率は13.3%と3.5ポイント上昇

■当期純利益 88億円

■配当 50円00銭

貸借対照表の概要: 連結



(単位: 百万円)

	09年3月期		10年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
流動資産	75,140	60.3%	91,060	66.4%	15,920
現金および預金	12,223		20,193		
受取手形及び売掛金	35,615		36,859		
有価証券	3,500		5,353		
棚卸資産	18,187		21,874		
その他流動資産	5,613		6,779		
固定資産	49,412	39.7%	46,129	33.6%	▲3,282
有形固定資産	17,122		15,825		
無形固定資産	1,632		1,024		
投資その他	30,657		29,278		
資産合計	124,552	100.0%	137,190	100.0%	12,637
流動負債	21,715	17.4%	26,198	19.1%	4,483
支払手形及び買掛金	8,258		9,858		
その他流動負債	13,456		16,340		
固定負債	6,336	5.1%	6,079	4.4%	▲256
負債合計	28,051	22.5%	32,278	23.5%	4,227
株主資本	97,513	78.3%	104,907	76.5%	7,394
評価・換算差額等	▲1,012	▲0.8%	3	0.0%	1,015
純資産合計	96,501	77.5%	104,911	76.5%	8,410
負債及び純資産合計	124,552	100.0%	137,190	100.0%	12,637

<当期のポイント>

■ 流動資産: 15,920百万円増

- ・現金、預金の増加 (7,970百万円増)
- ・受取手形、売掛金の増加 (1,244百万円増)
- ・棚卸資産の増加 (3,686百万円増)

■ 固定資産: 3,282百万円減

- ・有形固定資産の減少 (1,296百万円減)
- ・無形固定資産の減少 (608百万円減)
- ・投資その他の減少 (1,378百万円減)

■ 流動負債: 4,483百万円増

- ・支払手形及び買掛金の増加 (1,600百万円増)
- ・その他流動負債の増加 (2,883百万円増)

■ 固定負債: 256百万円減

研究開発費・設備投資・減価償却費の状況<連結>



(単位:百万円)

	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期		11年3月期 (予想)
					実績	増減比	
研究開発費	10,107	8,609	10,826	10,531	11,807	12.1%	13,400
設備投資	4,605	2,954	1,952	1,612	1,291	▲19.9%	1,700
減価償却費	3,646	4,544	4,536	3,799	2,810	▲26.0%	2,600

<設備投資の状況(実績/予想)>

(実績)

工場設備

管理・販売設備

研究用設備

10年3月期実績

7億円

2億円

4億円

11年3月期予想

8億円

5億円

4億円

(予想)

工場設備

管理・販売設備

研究用設備

主要製品売上の状況



(単位: 億円)

	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期		11年3月期 (予想)	
					実績	前 同 比		
国内新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	134	150	191	252	292	15.9%	314
	ムコダイン (去痰剤)	199	204	212	206	209	1.5%	214
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	73	80	88	157	194	23.9%	201
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	63	58	54	50	46	▲7.2%	40
	ウリス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	—	—	7	20	37	88.6%	51
	アプレース (抗潰瘍剤)	24	20	18	15	14	▲9.3%	11
	ロカルトロール (骨粗鬆症治療剤)	22	19	18	15	14	▲9.1%	12
海外新医薬品	海外売上合計	86	58	43	38	26	▲30.0%	18
	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	67	32	30	25	22	▲10.4%	13
	海外売上比率	11.6%	7.5%	5.4%	4.1%	2.6%	—	1.8%
ヘルスケア	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	21	21	19	18	19	2.6%	21

主な業績項目の推移: 連結



	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期(予想)
売上高 (輸出高)	74,054 (8,575)	77,093 (5,762)	81,070 (4,367)	90,889 (3,830)	99,764 (2,693)	100,300 (1,800)
売上原価 (売上原価率)%	26,515 (35.8%)	30,620 (39.7%)	31,757 (39.2%)	36,791 (40.5%)	37,477 (37.6%)	—
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	38,549 (52.1%)	38,059 (49.4%)	43,061 (53.1%)	45,146 (49.7%)	49,025 (49.1%)	—
うち研究開発費 (研究開発费率)%	10,107 (13.6%)	8,609 (11.2%)	10,826 (13.4%)	10,531 (11.6%)	11,807 (11.8%)	13,400 (13.4%)
営業利益 (営業利益率)%	8,989 (12.1%)	8,413 (10.9%)	6,251 (7.7%)	8,952 (9.8%)	13,261 (13.3%)	12,700 (12.7%)
経常利益 (経常利益率)%	9,465 (12.8%)	8,655 (11.2%)	6,643 (8.2%)	9,208 (10.1%)	14,234 (14.3%)	13,400 (13.4%)
当期純利益 (当期純利益率)%	5,228 (7.1%)	4,842 (6.3%)	2,189 (2.7%)	2,037 (2.2%)	8,848 (8.9%)	8,500 (8.5%)
一株当たり当期利益(円)	69.74円	64.97円	29.26円	27.24円	118.37円	113.72円
資本金	4,317	700	700	700	700	
総資産	121,044	124,039	122,398	124,552	137,190	
株主資本	94,752	96,922	96,401	97,513	104,907	
純資産	—	98,178	97,184	96,501	104,911	
一株当たり純資産(円)	1,275.15円	1,311.17円	1,298.89円	1,290.67円	1,403.60円	
自己資本利益率%	5.6%	5.0%	2.2%	2.1%	8.8%	
自己資本比率%	78.3%	79.2%	79.4%	77.5%	76.5%	
人員(人)	1,823人	1,932人	2,003人	2,247人	2,246人	
設備投資	4,605	2,954	1,952	1,612	1,291	1,700
減価償却費	3,646	4,544	4,536	3,799	2,810	2,600

(単位:
百万円)

* 06年3月期業績までは杏林製薬(株)の連結数値、07年3月期以降の業績及び11年3月期予想は(株)キョーリンの連結数値を示す

損益計算書の概要：杏林製薬単体－①



(単位：百万円)

	09年3月期		10年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	77,962	100.0%	85,308	100.0%	9.4%	7,346
新医薬品	75,083	96.3%	82,330	96.5%	9.7%	7,246
国内	71,935	92.3%	79,766	93.5%	10.9%	7,831
海外	3,148	4.0%	2,563	3.0%	▲18.6%	▲584
後発医薬品	251	0.3%	394	0.5%	57.1%	143
ヘルスケア	2,627	3.4%	2,583	3.0%	▲1.7%	▲43

<当期のポイント>

対前年

■ 売上高 85,308百万円 (+7,346百万円)

● 国内新医薬品 79,766百万円 (+7,831百万円)

09.3実績 10.3実績 (億円)

・キプレス 252 → 292 (+40)

・ムコダイン 206 → 209 (+3)

・ペンタサ 157 → 194 (+37)

・ウリトス 20 → 37 (+17)

● 海外新医薬品 2,563百万円 (▲584百万円)

・ガチフロキサシン 25 → 22 (▲3)

* ザイマー \$101MM⇒\$98MM ロイヤルティ収入の減少
(為替変動の影響等)

● 後発医薬品 394百万円 (+143百万円)

● ヘルスケア 2,583百万円 (▲43百万円)

・ミルトン 18 → 19 (+1)

損益計算書の概要：杏林製薬単体－②



(単位：百万円)

	09年3月期		10年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	77,962	100.0%	85,308	100.0%	9.4%	7,346
売上原価	29,551	37.9%	28,374	33.3%	▲4.0%	▲1,176
売上総利益	48,411	62.1%	56,934	66.7%	17.6%	8,523
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	39,894 (10,056)	51.2% 12.9%	43,795 (11,121)	51.3% (13.0%)	9.8% (10.6%)	3,900 (1,064)
営業利益	8,517	10.9%	13,139	15.4%	54.3%	4,622
営業外収益	998	1.3%	1,497	1.8%	50.0%	499
営業外費用	52	0.1%	56	0.1%	8.1%	4
経常利益	9,463	12.1%	14,580	17.1%	54.1%	5,117
特別利益	176	0.2%	37	0.0%	▲78.5%	▲138
特別損失	2,823	3.6%	112	0.1%	▲96.0%	▲2,711
税引前当期純利益	6,816	8.7%	14,506	17.0%	112.8%	7,690
法人税・住民税 及び事業税	2,617	3.3%	5,452	6.4%	108.4%	2,835
法人税等調整額	157	0.2%	▲419	▲0.5%	—	▲576
当期純利益	4,041	5.2%	9,472	11.1%	134.4%	5,430

<当期のポイント>

対前年

◆原価率：前年比4.6ポイント減少 (37.9%⇒33.3%)

低下要因：ペンタサ自社製造等に伴い低下

◆研究開発費率：前年比0.1ポイント増加

* 101億円⇒111億円(約10億円増加) (12.9%⇒13.0%)

◆販管費率(除R&D費)：横ばい

(38.3%⇒38.3%)

* 298億円⇒327億円(約29億円増加)
日清キョーリン製薬の統合等

■営業利益 131億円

◆営業利益率は15.4%と4.5ポイント上昇

■当期純利益 95億円

貸借対照表の概要：杏林製薬単体



(単位:百万円)

	09年3月期		10年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
流動資産	64,822	59.7%	78,422	65.4%	13,599
現金および預金	8,615		15,313		
売掛金	32,018		33,088		
有価証券	3,437		5,290		
棚卸資産	15,684		19,147		
その他流動資産	5,066		5,581		
固定資産	43,699	40.3%	41,400	34.6%	▲2,299
有形固定資産	13,789		12,847		
無形固定資産	486		328		
投資その他	29,423		28,225		
資産合計	108,522	100.0%	119,822	100.0%	11,300
流動負債	14,593	13.5%	19,003	15.9%	4,410
支払手形及び買掛金	5,423		6,849		
その他流動負債	9,170		12,154		
固定負債	5,457	5.0%	5,312	4.4%	▲144
負債合計	20,051	18.5%	24,316	20.3%	4,265
株主資本	89,328	82.3%	95,384	79.6%	6,056
評価・換算差額等	▲857	▲0.8%	120	0.1%	978
純資産合計	88,470	81.5%	95,505	79.7%	7,034
負債及び純資産合計	108,522	100.0%	119,822	100.0%	11,300

<当期のポイント>

- 流動資産： 13,599百万円増
 - ・現金及び預金の増加 (6,698百万円増)
 - ・売掛金の増加 (1,070百万円増)
 - ・棚卸資産の増加 (3,463百万円増)
- 固定資産： 2,299百万円減
 - ・有形固定資産の減少 (942百万円減)
 - ・無形固定資産の減少 (158百万円減)
 - ・投資その他の減少 (1,198百万円減)
- 流動負債： 4,410百万円増
 - ・支払手形及び買掛金の増加 (1,426百万円増)
 - ・その他流動負債の増加 (2,984百万円増)
- 固定負債： 144百万円減少

主な業績項目の推移: 杏林製薬単体



(単位: 百万円)

	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期 (予想)
売上高 (輸出高)	67,357 (8,331)	66,052 (5,521)	70,480 (4,155)	77,962 (3,148)	85,308 (2,563)	87,300 (1,600)
売上原価 (売上原価率)%	21,821 (32.4%)	23,815 (36.1%)	25,217 (35.8%)	29,551 (37.9%)	28,374 (33.3%)	—
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	36,762 (54.6%)	34,623 (52.4%)	38,319 (54.4%)	39,894 (51.2%)	43,795 (51.3%)	—
うち研究開発費 (研究開発费率)%	10,013 (14.9%)	8,216 (12.4%)	9,959 (14.1%)	10,056 (12.9%)	11,121 (13.0%)	12,600 (14.4%)
営業利益 (営業利益率)%	8,773 (13.0%)	7,613 (11.5%)	6,942 (9.8%)	8,517 (10.9%)	13,139 (15.4%)	12,300 (14.1%)
経常利益 (経常利益率)%	8,377 (12.4%)	7,615 (11.5%)	7,328 (10.4%)	9,463 (12.1%)	14,580 (17.1%)	13,300 (15.2%)
当期純利益 (当期純利益率)%	4,771 (7.0%)	4,697 (7.1%)	3,776 (5.4%)	4,041 (5.2%)	9,472 (11.1%)	8,400 (9.6%)
一株当たり当期利益(円)	63.64円	63.25円	50.85円	54.42円	127.54円	
資本金	4,317	4,317	4,317	4,317	4,317	
総資産	111,978	106,042	104,910	108,522	119,822	
株主資本	92,525	85,706	86,140	89,328	95,384	
純資産	—	86,797	86,792	88,470	95,505	
一株当たり純資産(円)	1,245.22円	1,168.71円	1,168.63円	1,191.24円	1,285.95円	
自己資本利益率%	5.3%	5.2%	4.4%	4.6%	10.3%	
自己資本比率%	82.6%	81.9%	82.7%	81.5%	79.7%	
人員(人)	1,502人	1,488人	1,517人	1,716人	1,724人	
設備投資	4,455	1,322	1,350	969	1,051	1,200
減価償却費	3,307	3,997	3,844	3,042	2,198	2,000